

大学・学生と地域がコラボして京都のまちを活性化！！

学まちコラボ

平成29年度活動報告



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

市民による自治120年



京都市
CITY OF KYOTO



🐦 学まちコラボって??

大学・学生と地域との連携事業は、学内だけでは得られない学生の学びと成長につながります。

京都市と大学コンソーシアム京都では、魅力あふれる京都のまちづくりに貢献しながら得られる学生の学びを充実させるため、大学・学生と地域が目的を共有し一体となり、京都のまちづくりや地域活性化に資する事業を広く募集し、認定した事業に支援金(最大45万円)を交付して取組を応援しています。

大学・学生 × 地域
= 地域活性化!!



4月～5月 募集

6月

審査

(書類・プレゼンテーション)

7月

認定式

事業実施

3月

事業報告会・意見交換会

🐦 応募も学び!!

公開プレゼンテーション審査

応募団体の中から書類審査を通過した団体が、選考委員や一般来場者の前でそれぞれの取組をプレゼンテーションします。平成29年度は31件の応募のうち、書類審査を通過した24件がプレゼンテーション審査に臨みました。

各団体は工夫を凝らしたプレゼンテーションで取組をアピール。選考委員から厳しい質問が飛ぶこともありますが、どの団体もしっかりと準備を重ねてきた成果を存分に発揮します。また、連携する地域の皆さんも応援にかけつけていただきました!



🐦 さあいよいよスタートだ!!

認定式・講評



採択された事業について、門川大作京都市長や選考委員同席のもと、認定式を開催。市長から認定証を交付され、各団体が取組に向けた決意を表明。地域活性化に向け、力強くスタートを切ります。



認定式終了後には、選考委員から、採択団体それぞれに対して講評やアドバイスが行われ、各団体は真摯に聞いていました。

採択された20団体が地域のみなさんとともに活動開始!! 詳細は各事業のページを御覧ください!!

	NO	事業名	団体名	ページ
一般枠認定事業	1	伏見深草・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクト	龍谷大学・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクトチーム	3
	2	竹の可能性を掘り起こせ! 竹友会竹取物語	京都教育大学竹友会	4
	3	京都文教大学バスツアーズ	京都文教大学バスツアーズ	5
	4	地域と大学の共生プロジェクト	京都経済短期大学 地域と大学の共生プロジェクト	6
	5	そらたねプロジェクト	そらたねプロジェクト	7
	6	高雄活性化プロジェクト	佛教大学京都・高雄活性化プロジェクト	8
	7	S-Team ~女子高生とおばあちゃんを繋ぐ居場所づくり~	学生団体 SMILE	9
	8	子ども科学教室	わくわく研究室	10
	9	団地のつながりを取り戻す 連携プロジェクト「桃陵 HANDs」	龍谷大学政策学部 Ryu-SEIGAP 「学生団体はうすまいる」	11
	10	京北宇津ふれあい学びあい	京都精華大学京北宇津宝さがし会	12
	11	みらいアートせいかプロジェクト	しーかす	13
	12	京都三条会商店街寺子屋事業	京都光華女子大学光華三条ガールズ	14
	13	高齢者・障がいがある方の 「食」を学び、支援しよう!	KOKA ☆オレンジサポーターズ	15
	14	カモシネマ 13	カモシネマ 13 実行委員会	16
	15	ふかくさ町家シネマ (昭和の映像上映会)	ふかくさ町家シネマ	17
	16	ソイカル from 静原 ~京都大豆食文化の発信~	みらい発信局おむすび静原応援隊	18
	17	北白川こども食堂「からふる」	からふる	19
文化枠認定事業	1	ORIGAMI科学で文化発信	これからの算数・数学教育を考える会	20
	2	みんなで灯そう醍醐中山団地のあかり	京都橘大学現代ビジネス学会まちづくり研究会	21
	3	着物ファッションショー	学生団体 京都着物企画	22



学生が、地域の方と共に取り組んだ成果を選考委員や一般来場者の前で発表します。平成25年度からは、最も優れている取組を

報告会終了後には、一般来場者も交えた意見交換会を行いました。取組に対する質問から、アイデア提案など活発な意見交換となりました。



行った1団体を選び表彰しています。

様々な課題に直面しつつ取り組んだ成果は、学生と地域にとって大きな財産となり、今後の活動にいきることでしょう。



実施団体の紹介

龍谷大学・東高瀬川の
環境保護と
地蔵盆プロジェクトチーム

社会福祉を学ぶ短期大学部1・2年次生で構成。地域の伝統行事の活性化だけでなく、その会場となる河川周辺の環境保護に取り組んでいる。活動を継続することで気づいた新たな課題の解決にも取り組んでいます。

川久保町自治会
砂川学区自治連合会

伏見区深草にある町・学区の自治会。地域行事等を主催している。

砂川学区東高瀬川を美しくする会
東高瀬川流域の地域住民で構成する河川環境に関する広域活動団体。

京都市立伏見工業高等学校システム
工学科都市情報システムコースの生徒
数年前から河川環境整備のため地域住民と共に環境改善に取り組んでいる。

事業について

目的

地域の活性化と環境保護によるまちづくりを目指している。町内を流れる東高瀬川は、不法投棄が目立つ河川であった。その河川敷で実施される地蔵盆は少子高齢化のため参加者が減少して、短時間で終わっていた。東高瀬川の環境改善と、伝統行事を次世代に引き継ぎ、学生が大人・高齢者世代と子ども世代の橋渡し役となって地蔵盆の企画・運営に関わり、地域の活性化だけでなく、安心・安全なまちづくりをめざす。

活動
内容

地域住民・高校生・大学生が高校の教室で手作りの竹灯笼を40個制作(7/14)。会場整備の活動(清掃・草刈り)に地域住民・高校生・大学生が参加して交流促進(8/12)。子供会実施の企画と重複を避けるため、企画会議を実施(8/6)。地蔵盆の開催(8/19・20)。次年度の活動に向けてホテルの幼虫を飼育する活動を開始(8/25)。「防災のまちづくり」学習会を開催、地域住民が多数参加(9/22)。「龍大深草町家キャンパス」にて地域の方を講師に、深草の歴史を学ぶ(11/18)。

成果

〈学生にとって〉

伝統行事の継承には多数の住民参加が必要だと学んだ。竹灯笼を手作りましたので愛着を感じた。不法投棄が減少して河川環境が向上したと聞いて達成感を感じた。自分たちが企画・運営したことが地域に受け入れられ、川久保町自治会から「感謝状」を頂いたことに感激した。

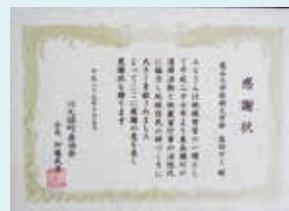
〈地域にとって〉

半日だけの地蔵盆が竹灯笼により夜まで続き、町内の大人同士が交流する機会となった。この竹灯笼プログラムは平成26年から毎年実施してきたので、地域の恒例イベントとして定着してきたうえ、河川への不法投棄も減少した。

学生・地域の声

自分たちが企画したプログラムで、みんなが喜んでくれたので、とてもうれしかった。

学生と共に活動すると元気をもらうだけでなく楽しく活動できた。



竹の可能性を掘り起こせ！

(京都教育大学)

竹友会竹取物語

伏見区

実施団体の紹介

京都教育大学竹友会

京都教育大学竹友会では、藤森地域の竹を用いた活動を実施しています。竹林整備により出た間伐材を竹馬や竹灯笼、門松などに加工したり、作品を藤森地域でのイベントに出展して、竹の可能性を探求しています。



藤森学区連合自治会

藤森神社でのイベントを主催している。

藤森手作り市実行委員会

毎月催される藤森手作り市のイベントを主催している。

NPO 法人京都・深草ふれあい隊竹と緑
伏見区で竹を用いた地域共同活動を行っている。

深草商店街

11月にある深草100円商店街の企画・運営をしている。

京都橘大学現代ビジネス学会まちづくり研究会
焼き物の灯笼・陶灯笼でライトアップイベントを行っている。

事業について

目的

現在、伏見区藤森地域では放置竹林が広がり、竹や雑木の繁茂、倒竹が問題となっている。その放置竹林を整備し、健全な状態に近づけ、さらには間伐材の有効利用方法を検討している。また、学生や地域の方々に竹を使ったものづくりの楽しさに気付いてもらうために、地域のイベントで、竹を用いたワークショップや竹灯笼のライトアップを実施し、竹の可能性を掘り起こすことを目指している。

活動内容

8月の藤森盆踊りフェスティバルではイベントの企画運営をしている藤森学区連合自治会と5月から打ち合わせを重ねて、竹灯笼ライトアップ(8/6)を実施した。このイベントには京都橘大学現代ビジネス学会まちづくり研究会の方に協力してもらい焼き物の灯笼・陶灯笼とのコラボが実現した。11月に催された深草100円商店街(11/23)ではNPO法人京都・深草ふれあい隊竹と緑に協力していただき、深草小学校に竹ブランコを出展した。また、藤森手作り市実行委員会主催する藤森手作り市にミニ門松づくりワークショップ&販売(12/17)を実施した。

成果

〈学生にとって〉

竹林整備により出た間伐材を用いたものづくりにおいて、自分たちで計画・製作・展示を行い、地域の方に作品を見て・触れて・楽しんでもらうことで、つくる喜びや達成感を感じることができた。また、ワークショップなどで、地域の方々のものづくりの楽しさを共有できたことも非常に有意義であった。今後も様々な竹の有効利用を検討し、放置竹林の整備を進めていきたい。

〈地域にとって〉

地域のイベントで、竹灯笼や竹ブランコなど竹を用いた企画により、子どもだけでなく大人の方も一緒に楽しめるイベントにすることができた。学生との新たな繋がりにより、ライトアップイベントなど、さらなる活動の深化が期待できる。



学生・地域の声

自分たちで作ったもので多くの人が喜び、興味をもってくれたことで、活動の自信に繋がった。

巨大な竹のブランコや幻想的な竹灯笼ライトアップは今まで体験したことがなく、子どものころに感じたワクワクを再び感じる事ができた。

実施団体の紹介

京都文教大学バスツアーズ

平成 25 年から、向島ニュータウンでひとり暮らしをする「引きこもりがちな高齢者」と共に、京都文教大学のスクールバスを利用した日帰りバスツアーを年間 4～5 回実施している。



向島二ノ丸学区社協
向島二ノ丸民生児童委員
京都文教マイタウン向島ランチクラブ
笑顔つながろう会(福島から避難しているママたちの会)
夕陽紅の会(中国帰国者の会)
京都文教マイタウン向島運営会議「寄合い」
向島駅前まちづくり協議会

向島ニュータウンは、ひとり暮らしの高齢者に対する地域ぐるみの生活支援が課題となっており、学区社協や民生委員の方の役割が大きくなっている。

× × × × × × × × × × × × × × × × 事業について × × × × × × × × × × × × × × × ×

目的

引きこもりがちなひとり暮らし高齢者が外出できるように、月 1 回の京都文教マイタウン向島ランチクラブ、歌の集いや囲碁クラブなどが実施されている。健康面や経済面で不安を抱えている高齢者に旅行の楽しさを提供するために参加者と相談しながらスクールバスを使ったバスツアーによって元気になってもらう。

活動内容

参加者のアンケートを基に民生委員と相談しながら旅行先と内容、実施日などを検討し、ひとり暮らし高齢者向けを 3 回(7 月 和東町と浄瑠璃寺・岩船寺, 11 月 綾部グンゼ博物館と伊根の舟屋めぐり)実施した。笑顔つながろう会と連携した「10 月 淡路島ツアー」は台風のため延期となっている。さらに今年は中国帰国者 2・3 世が中心となり、1 世の生活を支援する「夕陽紅の会」と連携し、中国帰国者の高齢者に旅行の楽しさを提供する「2 月 長浜ツアー」も実施予定。

成果

〈学生にとって〉

ツアーの企画から実施までを体験し、大学隣接地域住民との交流により、地域に貢献できた。今後は満足度アンケートによる振り返りにより、学生ツアーの可能性をさぐる。

〈地域にとって〉

日頃、家に引きこもりがちな高齢者同士の相互交流ができた。また、旅行に行くことで日頃のストレスを発散、生き甲斐を見いだすことができた。



学 生 ・ 地 域 の 声

「11 月 綾部ツアー」では、何年も見えていなかった舟屋や綺麗な景色、日本酒の試飲ができてとても楽しかった。

みんなと楽しい時間を過ごすことができた。孫より若い学生さんと話をして元気をもらった。



実施団体の紹介

京都経済短期大学
地域と大学の
共生プロジェクト

京都経済短期大学の課外活動講義であるプロジェクト演習を履修した有志学生が、少子高齢化などの影響により活気が失われつつある洛西ニュータウン地域における地域活性化活動に取り組んでいる。



NPO 法人洛西福祉ネットワーク
洛西ニュータウン竹の里学区における高齢者を対象にした相互扶助を行う団体。

北福西町三丁目自治会
洛西ニュータウン福西学区の自治会。学生との連携によるイベントを行っている。

**公益財団法人
京都市ユースサービス協会**
洛西ニュータウンにおいて、「洛西スコレ」と称する中学生学習支援活動を行っている。

× × × × × × × × × × × × × × × × 事業について × × × × × × × × × × × × × × × ×

目的

洛西ニュータウンは、少子高齢化に付随する諸問題を抱えている地域である。洛西ニュータウン地域にある大学として、これから社会に出る学生が地域の問題を把握するとともに、世代を問わず地域住民がつながり、課題解決と活性化を目的とした。



活動内容

NPO 法人洛西福祉ネットワークとの活動においては、毎週金曜日に竹の里センターにおいて地域の方々と昼食を共にしながら洛西ニュータウンの現状と課題についての話し合いを行った。

北福西町三丁目自治会との活動においては、月に一回程度の各種イベントの運営に参加した。とりわけ夏祭りの催しでは模擬店の出店（売上は小畑川清掃活動を行っているボランティア団体に寄付）や軽音サークルのコンサートを行った。



公益財団法人京都市ユースサービス協会との活動においては、学習支援のみならず個別の悩みの相談相手としてアドバイスを行った。

成果

〈学生にとって〉

地域の課題を共有することで、学生から社会人になる自覚が芽生えた。加えて、人や地域は地域内外の様々な人とつながることで成り立っていることを学んだ。課題解決も同様につながりが重要であることを学んだ。

〈地域にとって〉

高齢社会の真ただ中にある洛西ニュータウン地域に、学生の若いエネルギーが注入されることによって、地域に活気をもたらされた。また、普段引きこもりがちな高齢者が様々なイベントに参加する意欲が生まれた。



学生・地域の声

地域の歴史的背景を知ることができ、勉強になった。自分も地域の一員なのだと思えるようになった

若い人たちが地域に関心を持ってくれるようになり、とても嬉しい。今後とも継続的に支援していただきたい。

実施団体の紹介

そらたねプロジェクト

北区の新大宮商店街地域での祭りを学生主体で企画運営し、商店街の商品の地産地消の推進や地域の子どもに対して商店街が身近なコミュニティであることを示すなどの多面的な地域活性を主題としている。



新大宮商店街 唯明寺

京都市北区新大宮商店街の浄土真宗の寺院。住職が学生の地域参加活動や地域におけるコミュニティ形成拠点として寺院での音楽コンサートや季節行事に対し非常に積極的である。

事業について

目的

大学が複数存在し、学生が多く住む新大宮商店街とその周辺地域に賑わいをもたらし、学生と地域を繋ぐことにより、学生同士、学生と若手社会人など、人と人を繋ぐ新たな地域活動を生み出すことを目的に活動している。

活動内容

商店街の夏祭りでは、子ども向けのゲームブースの運営や各種食品販売を行い、多世代型交流を促した。そらたね祭では、商店街各店舗の特性を生かした各種ワークショップや、放課後デイサービス・商店街店舗での子どもの交流スペースを開設した。また、商店街の魅力発信を目的に、多世代出演型の屋外ライブや商店街スタンプラリーなども企画していたが、台風のため中止となった。

成果

〈学生にとって〉

学生にとっては、新たな地域や学生コミュニティと出会え、地域の魅力を知ることができ、それを元に新たなアクションを起こすことができた。また、大人と関わることで地域や仕事に対する新たな視野や価値観を得られた。



〈地域にとって〉

地域にとっては、少子高齢化で夏祭りを始めとしたイベントの人手不足が危惧されていたが、学生が地域にボランティアとして関わることで、規模の大きいイベントでも継続することができ、商店街を盛り上げることに貢献している。学生がそらたね祭の広報をすることで、商店街自体の若者間での知名度も向上している。

学生・地域の声

地域と関わる活動に携わることで、これまで知らなかった社会や、自分とは異なる価値観や背景の人と係わる機会ができて有意義でした。

長く続くそらたねが今年も続いてよかった。関わる学生も増えているので、来年度も楽しみ。

実施団体の紹介

佛教大学 京都・高雄 活性化プロジェクト

佛教大学社会連携センタープロジェクトの1つとして本プロジェクトが開始され、現在、17名の学生有志が活動を行っている。高雄保勝会や高雄中学校と連携しながら、高雄地域の活性化のための企画提案及び実施をしている。



高雄保勝会

高雄地域の観光地としての魅力向上を目指す団体である。本活動では企画内容の打合せおよび運営協力、活動場所の提供をしていただいている。

高雄中学校

高雄地域にある中学校。夏イベントでの風鈴制作や清掃に参加するなど、活動に協力いただいている。

事業について

目的

高雄地域では観光客が減少し、集客が見込める紅葉シーズンにも観光客が減少傾向にある。若い女性層や外国人をターゲットに年間を通して観光客を呼び込みたいという地域の要望のもと、大学生ならでの目線で企画を立案・実施することにより、高雄地域の活性化を目的とする。今年度は特に秋以外のオフシーズンにも活動することを目指した。

活動内容

夏には、高雄中学校の生徒と協力して800個の風鈴に絵付けをし、高雄保勝会の方と高雄橋と神護寺に風鈴棚を設置した。また、BBQでゴミが増えた清滝川の清掃活動を行い、あわせて環境教育も行った。秋には、紅葉のライトアップに合わせた巨大走馬灯や北山杉を使ったミニ灯笼やコースター作り等のクラフト体験、高雄マスコットキャラクター選挙の3企画に加えて、観光客を対象にアンケート調査を実施した。



成果

〈学生にとって〉

地域と連携し、イベントの企画から運営までを体験することができた。その過程で、地域の方々と交流し、地域貢献に役立つことができた。また、イベントで行ったアンケートが来年度の活動のための参考となった。

〈地域にとって〉

地域のマスコットキャラクターの作成など、新たな目線から活性化に取り組むことができた。高雄中学校の生徒にとっては、環境教育を通して地域環境や観光資源について考える機会となった。また、観光客が気軽に立ち寄り楽しめるブースができた。

学生・地域の声

作業自体が楽しく、地域の方と一緒に活動ができてよかった。観光客や地域の方にも喜んでもらえ、作業過程でメンバー同士も仲良くなれた。

忙しくてイベントに割ける時間があまりないので、学生の協力は助かっている。今回は高雄らしい良いクラフト作品ができてよかった。

実施団体の紹介

学生団体 SMILE

京都市を中心として不登校・自殺予防・性犯罪被害対策などの社会問題の解決と若者の居場所づくりをする大学生の団体である。京都市こころの健康増進センターと提携して「Life in Light」という自殺予防啓発イベントを行うなど多数の事業を行っている。



地域密着型総合ケアセンター きたおおじ
京都市北区の老人ホームであり、地域の学生や人々と積極的に関係を持つことで高齢者が安心できる居場所を提供されている施設である。

京都市北青少年活動センター
京都市ユースサービス協会の施設であり、S-Teamでの高校生との交流の場の提供や地域のイベントへの招待をしていただいた。

KTC 中央高等学院 京都キャンパス
京都の通信制高校であり、高校生の継続的な参加のために、活動を広報する場を提供いただいた。

事業について

目的

学校・家庭に居場所がないと感じている女子高校生と、孤立しがちで世代間交流の機会の少ない高齢者を女子高校生の得意とするおしゃべり（ネイルやハンドマッサージなど）でつなぐことで、お互いに第3の居場所と自己肯定感を得ることを目指した。この事業を行うことで、世代をまたいで孤独や孤立を防ぎ、京都市の自殺者数減少にも貢献することを目的としている。

活動内容

女子高生が老人ホームを月2回ほど訪問し、高齢者の方々にネイルとハンドマッサージを楽しんでいただいた。一日の流れとしては、はじめに高校生と大学生がネイルの方法や高齢者とのコミュニケーションについて勉強会をし、大学生と高校生の間でつながりを作った。その後、老人ホームで実際に高齢者の方にネイルなどをさせていただき、高齢者と大学生・高校生の交流の場を作った。活動をする中で、地域のお祭りに呼んでいただく機会が数回あった。そこでS-Teamの活動を紹介して、地域の方々にも人々の「居場所」について考えていただいた。

成果

〈学生にとって〉

高校生と高齢者の方という両者の居場所を考えると工夫をするのは難しくもあったが、それ以上に継続的なボランティアであることが、高校生と高齢者、さらには私たち大学生の間の関係を密にしたと考える。お互いに名前や顔が分かる関係になったことは、お互いの居場所づくりに貢献したと言える。

〈地域にとって〉

事業を通して今までにない世代間交流ができるようになった。高齢者と大学生・高校生との顔を覚えらるほどの継続的な交流は珍しく、新しい地域の人々の交流の場の形として定着させることができた。

学生・地域の声

高齢者の方の今まで見たことがないほどの嬉しそうな様子が伺えたり、学生がいなくなった後もネイルをお互いに見せ合って楽しそうにしているのが印象的でした！

自分がしたことで思った以上に喜んでもらえて嬉しいです。普段聞けないような昔のお話も高齢者の方から聞くことができてためになりました。



実施団体の紹介

わくわく研究室

佛教大学教育学部平田ゼミの3・4回生の学生22名が企画、運営を行う団体。月に一度、上京区の北野商店街内にある施設「ゆいま～る(佛教大学コミュニティキャンパス北野)」で小学生を対象に科学教室を行っている。



北野商店街

中立売通から一条通を東西に400メートルにあたって約100店舗が軒を連ねる商店街。商店街の中には地域の方の居場所を作るための施設も存在し、交流の場として様々なイベントが開かれている。

事業について

目的

子どもたちの理科離れがささやかれる中、教員養成課程の学生と小学生が理科実験を通してふれあう場所があることは貴重であると考え始めた。また、上京区は少子高齢化が進んでおり、子どもはもとより、地域の方々が安心して暮らせるコミュニティづくりが必要であると考え、学生の視点から、協働まちづくりを行う事を目的としている。

活動内容

月に一度、「ゆいま～る」で科学教室を定期的に行った。保護者の方に見学してもらい、小さなコミュニティが生まれるように活動した。また、基本的には小学生を対象とした科学教室ではあるが、より大人を商店街に引き寄せるための工夫として、1年間で2回の休日開催も行うことで、今後北野商店街を、多くの世代が集う地域の居場所として根付かせるための足掛かりを作った。

〈学生にとって〉

成果

科学教室を地域の施設で行うことによって、よりリアルな子どもの声を聴くことができた。また、保護者の方とお話しする中で、「子どもの居場所」があることがどれだけ大切かを知ることができた。

〈地域にとって〉

商店街で科学教室を行うことによって、子どもの声が定期的に広がり、地域活性化の一端を担うことに繋がっている。また、施設に保護者の方が来ることによって、世代を超えた人の繋がりが形成されている。



学生・地域の声

地域の方から「楽しみにしている、また開催してほしい」と言ってもらえることにやりがいを感じた。



放課後に子どもの居場所ができ、いつも貴重な体験をさせてもらえることを楽しみにしている。

実施団体の紹介

はうすまいる

私たちが活動拠点としている伏見区の桃陵団地は、住民の減少・高齢化により、孤独死やつながりの希薄化が問題となっている。そこで私たち「はうすまいる」は、「団地百貨店」の開催や「団地だより」の発行など、住民同士のつながりを築く活動により「ほっとけない関係づくり」を目指している。



南浜学区社会福祉協議会

住民の交流企画である「桃陵シニアの暮らしを考える会」や、「桃陵 HANDs」を実施する際、場の提供や団地の情報を教えて頂いている。

× × × × × × × × × × × × × × × × 事業について × × × × × × × × × × × × × × × ×

目的

私たちが拠点としている桃陵団地では、少子高齢化や住民の減少により、住民同士のコミュニケーションが取りづらい状況にあり、それに対して危機感を抱く住民の方もいる。そのような状況の中で私たちは、団地内の住民同士のつながりを取り戻すために、「ほっとけない関係づくり」を目的にイベントの企画・運営を行っている。

活動内容

まず、住民の方々の要望やニーズを聞くために「桃陵シニアの暮らしを考える会」を開催した。そこで得た声を元に、住民同士の交流の場として「桃陵 HANDs」を開催した。桃陵 HANDs とは、無料カフェスペース・野菜市・バザー・子供向けブース等で構成されたイベントである。来場者にはアンケートを実施し次回以降の内容の改善に役立てている。また、月一回の団地だよりの発行や桃陵 HANDs の宣伝のチラシ・ポスターの作成、配布を行っている。



成果

〈学生にとって〉

実際の社会の中で、地域の方々や他の公共団体と連携して事業を行う難しさを学べたとともに、自分たちの身近な地域についての知識を深められた。また、住民の方と信頼関係を築くための一歩になった。

〈地域にとって〉

桃陵 HANDs や桃陵シニアの暮らしを考える会で、住民同士の交流の場を提供できた。また、イベントが住民の方の外出するきっかけとなり、結果として団地の活性化に繋がった。



学 生 ・ 地 域 の 声

「桃陵シニアの暮らしを考える会」の中にレクリエーションを入れることで楽しい雰囲気を作れた。

イベントのチラシをポストに入れる際、出会った住民の方から「いつも楽しみにしています。」「助かっています。」と言って貰えた。

実施団体の紹介

京都精華大学
京北宇津宝さがし会

京都市京北宇津地域の宝（自然、人、技術、伝統、歴史など）さがしや課題の整理、地域と大学の交流イベントなどを通して地域の活性化をめざす活動を行う大学サークルである。



宇津自治会

京都市京北宇津地域の自治会。宇津地域に関するの情報や施設の提供、協働作業への参画、イベント広報や告知支援、また、地域住民への情報提供などの協力を行っている。

×××××××××××××××× 事業について ××××××××××××××××

目的

宇津は、高齢化・過疎化という我が国の地域社会共通の課題に直面しているが、豊かな自然、歴史、文化を今に伝える魅力あふれる地域である。宇津自治会と学生が協働で、地域住民のニーズにあった活動を行い、宇津の魅力を再構築・再発信することが事業の目的である。



活動内容

今年が4回目になる夏の子どもフェスタでは、鮎釣りや川遊びや子ども写真教室を通して、地域の豊かな自然環境を再認識した。また、京北で活動する子育てサークル「親子にっこり製作所」とのコラボ事業「にっこりバザール」にて、お化け屋敷やワークショップを企画・運営した。さらに、「いっぶく家宇津移住促進チーム」と協働で移住を呼びかける看板を作成するなど、地域での活動内容が深まり、コラボ団体も幅が広がってきた。



成果

〈学生にとって〉

宇津について学び理解を深めると同時に、地域の方々と話し合い、依頼を受けた事業の企画立案や実行を学生が担う機会も増え、宇津地域の方々と新しい関係性が構築されつつあると実感している。

〈地域にとって〉

積極的な自治会活動への提案・参画やこどもフェスタ、写真教室などで地域住民と京北全体の子どもたちとの強い繋がりができた。



学生・地域の声

宇津の地域の方々と一緒に作業をすることによって、沢山の経験や知識を得ることができた。

地域の子育てサークルとのコラボ企画で大きな規模のイベントが成功して今後の展開が楽しみです。



実施団体の紹介

しーかす

学外に向けて創作活動体験（現地訪問型アートワークショップ）を企画、実施する学生団体で、在籍するメンバーは学部学科を超えて参加した有志の学生。



デイサービスセンター虹 精華大前
大学から徒歩5分圏内にある通所介護施設。

市原野児童館

午前中は乳幼児、午後は小学生、中高生が利用する児童福祉施設。

京都学生祭典

毎年行われる京都の大学生が運営するイベント。

など

事業について

目的

学校教育での美術の授業時間の減少や、高齢者の生活意欲の低下を背景として、学生が大学で培った能力を生かし、地域住民が創作に触れる場を提供し、こども達の「情感ゆたかな心」、高齢者の皆さんの「生きがい」に繋がる一つの契機を創出することで、今後、地域の方々の生活に美術が選択肢の一つとなる事を期待して活動している。

活動内容

デイサービスセンターのお年寄りには、三原色で混色しながらの塗り絵、マーブリングの名札作り、紙皿のクリスマスリース制作などを体験してもらい、児童館の子ども達とは日用品で行う版画技法（リトグラフ）、ガーデンコンテナの造形遊びなどを一緒に楽しんだ。

また、京都学生祭典のブースでは、団扇の絵付け、染めで作るハンカチ作りや、地域の秋祭りでの似顔絵コーナーを実施した。毎月のワークショップでは、実施前のニーズ聞き取りと、終了後の振り返りを繰り返しながら、新規プログラムの開発と、新入メンバーへの引き継ぎを行ってきた。

成果

〈学生にとって〉

大学で学ぶ知識や技術を応用して社会に還元できることを実際に体感しながら学べた。ワークショップを運営することで生まれる人と人とのつながりにより、コミュニケーション能力の向上につながった。

〈地域にとって〉

一度提供したワークショップを、その後連携先の地域団体が独自に継続し、レクレーションとして行おうとする動きが見られた。また、デイサービスセンター虹からは、本事業が架け橋となり、本学の他の同好会、音楽グループ等がイベントで呼ばれるようになった。



学 生 ・ 地 域 の 声

当初の目的だった、提供したワークショップを先方の職員だけで実施する事が形になってきて、やりがいを感している。

昨年度から継続することで築いてきた関係が、これからも途切れることなく未広がりであってほしい。

実施団体の紹介

京都光華女子大学
光華三条ガールズ

三条会商店街と子どもたちが好きな学生が集まり、子どもたちにとっての遊びや学びの場、地域の方にとっての交流の場をつくるべく、寺子屋で活動している団体である。



京都三条会商店街振興組合

三条会商店街や周辺地域でのイベントの企画、実施など、さまざまな活動を行っている。イベントや商店街のお店の情報を載せたチラシを毎月発行しており、光華三条ガールズのイベントの宣伝も載せて頂いている。

事業について

目的

商店街のイベントや季節に合わせたイベントを企画・運営し、子どもたちにとっては遊び場や学びの場として、地域の方々同士のコミュニティの場を広める活動を通して、私たち学生と地域との繋がりを深め、京都三条会商店街の更なる活性化に向けた関係を築くことが目的。

活動内容

11月と1月に地域の子どもたちを対象に、商店街とのコラボイベントを行った。11月のハロウィンイベントでは、「トリック・オア・トリート」の言葉とともに商店街のお店を周るなど、商店街のお店を知ってもらうことを目的としたイベントを開催。また、1月には、商店街の理事会の方やお店の方と協力して、お正月イベントを開催した。

成果

〈学生にとって〉

学校では経験できない、地域の方と連携する難しさなどを学ぶことができた。また、学校で学んだことを発揮するとても良い機会にもなっている。また、自分たちが企画したイベントを楽しんでくれる参加者を見ると、イベントを行って良かったという思いが生まれる。

〈地域にとって〉

商店街の方と協力したイベントを行うことで、商店街の方と地域の子ども達との会話が生まれ、コミュニケーションを取る機会になった。また、今まで知らなかった商店街のお店を紹介することで、商店街を知るきっかけにもなった。



学生・地域の声

今年も商店街でのイベントに参加できて良かった！今度お店でお買い物してみたい。

計画から当日の運営まで全て自分たちで準備することは、とても難しかった。

実施団体の紹介

KOKA ☆
オレンジサポーターズ

高齢者・障がい者の「食」についての支援を学び、高齢者や障がいのある方が食べやすい和菓子の開発に参加し、提供する取り組み「KOKA ☆オレンジプロジェクト」を2016年度から実施している。

京滋摂食嚥下を考える会 /
コスモスハート
(地域ボランティア)

「京滋摂食嚥下を考える会」は、多職種が連携して高齢者・障がい者の「食」に関する支援を行っている。「コスモス・ハート」は、右京区の梅津学区を拠点に、地域活動の運営をサポートしている。

事業について

目的

高齢者・障がい者の支援を行う専門職を目指す学生が、地域の「食」支援の現状について学び、学生にできる支援を考え、実行することを目的とした。右京区基本計画「右京かがやきプラン」で目指された「世代を超えて助け合い、支え合い、人のつながりで地域の未来をつくるまち」に合致した活動と考える。

活動内容

近隣の施設等を見学し、高齢者・障がい者に対する「食支援」の現状を学んだ。また、高齢者や障がい者の方にも飲み込みやすいように調整された「嚥下調整食」について学び、学生が食事の調理や和菓子の開発に参加して、地域の方を招いて提供したり、地域に出向いて提供するイベントを行った。また、「おいしく安全に食べること」の啓蒙のため、飲み込みやすい食品の性質や食べ方の工夫などを記したパンフレットを作成した。

成果

〈学生にとって〉

多職種・地域連携の会で作られている介護食・嚥下調整食について実際に学び、調理に参加し、見学では「飲み込みにくさ」について生の声を聞いたことが、座学での学びでは得られない貴重な経験となった。

〈地域にとって〉

和菓子の提供イベントの実施で、飲み込みやすい和菓子についての情報提供の機会になった。また、高齢者・障がい者と世代の違う学生とのコミュニケーションの場が生まれた。



学生・地域の声

「やあらか和菓子」のみたらし団子を食べて、おいしい、食べやすい、と言っていたのでよかった

普段、高齢者と過ごす機会がないので、ゲームなどを通して自然とお話が弾んで楽しかった。

実施団体の紹介

カモシネマ 13 実行委員会

カモシネマ実行委員会は鴨川の河原での清掃活動はじめとしたボランティア活動、そして野外映画上映会「カモシネマ」を通して、京都の歴史ある景観において重要な役割を担う鴨川を守るきっかけづくりを行っている。



鴨川を美しくする会・京の七夕実行委員会・関西学生広告連盟・ミスキャンパス同志社・写真サークル Zoo・京都国際学生映画祭・立命館大学放送局・そらたねプロジェクト・RADIO MIX KYOTO ほが

昨年までもお世話になっていた団体に加え、今年度新たに地域への発信力がある団体や、映画や写真などのコンテンツとの親和性が高い団体を中心に提携した。特に学生の関わる団体では広報などの面で、相互に協力関係を築いた。

事業について

目的

鴨川の河原での野外映画上映会や清掃をはじめとしたボランティア活動を通して鴨川の美化を推進すること、京都の伝統ある自然のひとつである鴨川の魅力を伝えること、鴨川を美しいまま未来へつなげていくことの実現に向けて、来場した方々にとってカモシネマが鴨川について考えるきっかけとなることを目的としている。

活動内容

4月には鴨川茶店、8月には鴨川納涼でのごみ回収及び分別ボランティアを行い、鴨川の清掃・美化活動を行った。また、8月19日に開催した「カモシネマ 13」の運営や広報などを行った。今年度は広報に注かし、事前事後あわせて20以上のメディアに取り上げてもらった。当日は「ソラニン」を上映したほか、提携団体と共に企画も実施し、約400名が来場して楽しむイベントとなった。

成果

〈学生にとって〉

カモシネマの企画・運営に携わることで、参加学生自身も鴨川について考えるきっかけとなった。また、多くの提携団体や協賛企業などに関わるなかで京都でしかできない活動であることを実感し、大学生生活を京都で送れてよかったと思うことができた。

〈地域にとって〉

普段何気なく通り過ぎる鴨川に足をとめることで、改めてその環境自然としての魅力を肌で感じることもできた。また、学生と相互にコミュニケーションをとることで地域店舗などにとっては学生の声をきくきっかけとなった。



学生・地域の声

京都に旅行に来ていたのですが最終日の最後に良い思い出になりました。

この時期にこんなに素晴らしい企画をしてくれた学生さんに感謝です。すごく楽しかったです！これからも頑張ってください。

実施団体の紹介

みらい発信局 おむすび
静原応援隊

左京区にある静原という町を地域の方と協力して元気にできるよう取り組んでいる。地域産業である農業に着目し、作物栽培や商品化・販売などを行い、将来的には産業を興すことを目標に静原の活性化を図る。



静原自治振興会

静原自治振興会は伝統行事の運営や静原の環境整備、課題解決などに取り組む団体。

むすびわざグッズ制作チーム

京都産業大学の大学グッズの開発・販売に取り組む団体。

×××××××××××××××× 事業について ××××××××××××××××

目的

京都の伝統料理である「京料理」。そこには白味噌や湯葉・豆腐といった大豆を用いた食品が用いられるが、その大豆の多くは府外産のものに頼っているのが現状である。

そこで本事業は、京都大豆の地産地消の再興と京都大豆食文化の発信を目的とし、静原地域と協働した京都産大豆の栽培・商品開発を行う。

活動内容

私達が、静原の地域の方にお借りしている農園で大豆(品種:オオツル)の栽培・収穫したものや地域の方に栽培してもらった大豆を加工・商品化・販売することで京都産大豆の普及と地産地消に取り組んだ。また、大豆の植え付け会・枝豆を食す会・収穫祭・味噌作りの会などを開催し、参加者に京都産大豆の良さを伝えた。今後は売れる大豆商品を開発すると同時に、原材料の安定供給を図るため、地域の方と協働して大豆栽培のできる農地を拡大していく。

成果

〈学生にとって〉

大豆の活動を通して築いた地域との信頼関係をもとに、地域産業の活性化に取り組むことができた。また商品開発を通して、生産者・メーカー・販売店など、産業における様々な立場の人と関わり、多様な価値観と商品づくりのノウハウを得た。

〈地域にとって〉

過疎化が進むなか、大学生や地域外の人が大豆の催しや伝統行事・地域整備に参加する事で、地域が活気を取り戻した。また、大豆栽培や商品づくりがメディアに取り上げられた事で多くの人に静原について関心を持ってもらうきっかけになった。

学生・地域の声

企画・生産・販売の過程を通じて世の中の商品の流れを知ることができ、その際に様々な人とのつながりを得ることができた。

自分たちにとっては今まで当たり前のようにしてきた農業を若者に伝承していくことができ嬉しく思う。



実施団体の紹介

からふる

「食卓」という場を通じて気軽に対話できる「みんなの居場所」づくりや、学生の参加しやすい地域コミュニティの形成を目指す、京都大学の学生を中心とした学生団体である。

北白川児童館
京都大学COC事業
「COCOLO域」

北白川児童館には活動場所の提供や当日のお手伝いなどをして頂いている。京都大学COC事業は学生と教員の協力で京都内の地域の課題を解決することを目的とした事業である。

事業について

目的

多様な人が気軽に対話できるような居場所を作ることが目的である。また、学生の街である京都に学生が運営するこども食堂を作ることによって学生が地域に参画するきっかけをつくとともに、既存の地域コミュニティに学生を取り込むことでさらなる活性化を図る。

活動内容

2017年5月～2018年1月の間に、北白川児童館にて合計7回こども食堂を開催した。食事の提供に限らず、鮭の解体ショーや流しそうめんなどこどもたちが新しいもの・ワクワクするものに触れるきっかけをつくった。別のこども食堂を主催する学生団体やシニアグループなど、様々な地域団体と交流・提携した。SNSやビラを利用して、学生、こども、大人など多方面への広報を図った。食堂でギターの弾き語りなどをして明るい雰囲気づくりに努めた。

成果

〈学生にとって〉

北白川地域の住民と関わることで、ただ住むだけでは感じられない京都への愛着を感じるきっかけが出来た。北白川に限らず、様々な人と出会い、地域問題について考えるきっかけとなった。

〈地域にとって〉

毎回楽しみに来てくれたり、学生の顔を覚えてくれたりするなど、少しずつこどもたちにとって馴染みのある居場所となりつつある。児童館に保護者や他の大人が集まるきっかけとなり、交流が活性化している。



学 生 ・ 地 域 の 声

毎回楽しみに参加させていただいています。企画の思いが子どもたちに伝わっているのを感じます。

いつもこども食堂の開催やクリスマス会の手伝いなど、ありがとうございます。

実施団体の紹介

これからの
算数・数学教育を考える会

将来、教員を目指した大学生が、日本の伝統文化に代表される「折り紙」の作品制作や、科学の視点からアプローチを試みた教材化に取り組んでいる。こうした取組を、子ども達に体験してもらうことで、理数に対する興味・関心の向上を図る。

附属学校園
ももやま児童館

附属学校園の小・中・高校の先生方と、公開講座で扱う折り紙算数・数学教材を開発した。また、社会福祉法人健光園「ももやま児童館」との共催で、伏見区内の小学生（30名程度）を対象に、出張講座を実施した（2018年1月27日）。

事業について

目的

日本・京都発祥の折り紙が持つ文化的要素に加えて、今後は最先端研究による折り紙の科学的要素を若い世代に伝承することが重要である。本事業では、大学生が地域の子ども達に公開講座を実施し、折り紙の文化と科学の魅力を紹介する。また、折り紙動画コンテンツの制作・公開により、文化都市京都の魅力を全世界に向けて発信する。

活動
内容

一つ目は、京都市内の小・中・高校生を対象に公開講座を計4回実施した。成果物は、公開講座の活動報告書を2点（まとめたものを作成予定）、折り紙文化の小冊子を1点である。二つ目は、代表的な折り紙作品（やっこ、いす）の折り方を、算数の視点から解説した動画10点と、京都の和雑貨（和紙、千代紙）を紹介する動画2点を制作し、本学公式サイト「GAKUMACHI.KYOTO」に公開した。また、本団体の取組が毎日新聞（2017年8月5日）に紹介された。

成果

〈学生にとって〉

学生が試行錯誤して開発した折り紙教材を、子ども達が夢中に取り組んでいる姿を目の当たりにして、将来教員になりたい気持ちが高まった。また、地域の方々との協働により、教育実習とは異なる実践知を培うことができた。

〈地域にとって〉

制作した折り紙動画コンテンツは、本事業の目的に対して、学生と地域の方々の相互理解をより一層可能なものとした。公開講座では、学生と地域の方々の双方が試行錯誤することで、文化と科学の融合を折り紙として創出できた。



学生・地域の声

自分の知らなかったことや普段見ている形が、折り紙の中にもあることを知ってよかった。

幅広いニーズを対象とした折り紙を媒体として、地域と大学が結び付ける点が非常によかった。

京都橋大学 現代ビジネス学会 まちづくり研究会

全国各地のまちづくり成功事例などを訪問・研究している。その研究を通して、山科区や伏見区醍醐地域でイベント企画・運営を行っている。

実施団体の紹介



醍醐中山団地

京都市伏見区醍醐中山団地の自治会活動の企画・運営を行っている。今回の事業では清水焼ワークショップの会場設営、陶灯路の運営などを実施した。

京都橋大学陶灯路実行委員会
7月の七夕陶灯路、10月のやましな駅前陶灯路を企画・運営している団体。今回の事業では醍醐中山団地陶灯路の企画・準備・運営を行った。

清水焼団地協同組合

山科区で清水焼を生産・販売している協同組合。今回の事業では清水焼ワークショップの陶器提供、絵付け指導などを行った。

事業について

目的 日本の伝統工芸『清水焼』の後継者が不足している「清水焼団地」と、高齢者と子育て世代との交流が減少している「醍醐中山団地」の課題解決を目的に、子どもたちが伝統文化に触れる機会として『清水焼ワークショップ』を開催し、そこで絵付けした陶器を陶灯路に展示することで、作品制作を通じた高齢者・子育て世代間の交流を促す。

活動内容 地域住民の交流促進と伝統工芸清水焼のPRのために『清水焼ワークショップ』『醍醐中山団地 陶灯路』のイベントを開催した。

清水焼ワークショップでは、地元の方々に京都の伝統工芸に触れてもらうことで、「清水焼の発信・認知向上」と「将来的な後継者不足の解消」を目指した。また『醍醐中山団地 陶灯路』では、地域住民の方々に運営の協力をさせていただくことによって、地域交流の促進を図った。また、当日には清水焼ワークショップで作成した100個の絵付け陶器を展示することにより、それを見に来られた地域住民の方々の交流の輪が生まれた。



成果 <学生にとって>

地域の方に絵付け体験を指導する側に回ることで、普段陶灯路で使用している清水焼に対する理解が深まった。また、地域の方と一緒に何かを完成させる経験により、リーダーシップや協調性が生まれた。

<地域にとって>

団地で陶灯路を行うことで、地域交流の場を増やすことができた。今回学生が間に入る形で絵付け体験や陶灯路を行ったため、普段交流のない世代間同士の交流が生まれ、団地の活性化に繋がった。

学生・地域の声



絵付け体験を行い、指導する立場に回ることで、京都の伝統産業である清水焼をより身近に感じることができた。

久しぶりに同じ団地の人と交流する場ができて嬉しい。機会があれば来年も参加したい。

実施団体の紹介

学生団体京都着物企画

伝統文化の魅力を自ら知り、若者に伝えるための活動をしている学生団体。ファッションショーや着付け塾、ギャラリー、SNS 企画など、伝統文化が若い世代の発想を取り入れ、鮮度を持って受け継がれていくために「若者目線」に立った企画を運営している。



○岡崎ときあかり

プロジェクションマッピングを目玉とする毎年九月に岡崎公園で開催されるイベント。本ファッションショーは共催。

○京都市立芸術大学
環境デザイン専攻

春に岡崎で行われた照明探偵団にも参加していた研究室で、空間演出に協力していただきました。

○ミスキャンパス立命館・同志社

○京都市内呉服店等

衣装を無償で提供。

事業について

目的

「着物綺麗だな」程度のぼんやりした好感は広く持たれているものの若者が着る機会が少ないのは、費用や着付けの難しさといった表面的な理由のほかに、そのきっかけとなりうる着物の“具体的な魅力”が意識されていないからではないかと考え、今回「色合わせ」という魅力に着目しそれを視覚的に多くの人に伝えるためファッションショーを実施した。

活動
内容

「色見本」をテーマに着物だからこそできるカラーコーディネート（古典から現代まで）を魅せるショーを行った。「モンスターエナジー」「ぺこ&りゅうちゃん」「アメリカ国旗」「萌黄」「落栗色」といった37の色見本とそれらの世界観を、着物や小道具、照明で表現した。今年は“学生目線”に強くこだわり、演出やモデル起用、広報等においてメンバーで約半年間模索した。また、来場者や他イベント参加者、京大生等にショー内容や着物店情報等が載ったパンフを配布した。動画も作成中。

成果

〈学生にとって〉

岡崎ときあかりとの共催や京芸さんによる演出協力は、それが相手にとってどんな良いことがあるのかをよく考えるきっかけとなった。「何かあったらまた言ってね」という言葉に言い表される信頼関係を生むことができた。

〈地域にとって〉

高校でのモデル募集によって高校特有の情報拡散力から多くの高校生の来場があり、大学生よりも地域に密着した存在である高校生に着物への興味をかきたてることができた。



学生・地域の声

着物のいろんな可能性を感じた。
着物が欲しくなった。

着物業界が盛り上がればいい！イトヘンが
不況になると京都全体が不況になる。



平成28年度

最優秀事業団体 「京都精華大学京北宇津宝さがし会」

学まちコラボ事業では、平成25年度より、報告会において最も優秀な事業団体を表彰し、トロフィー、賞状、活動奨励金（10万円）の授与を行っています。
昨年度の授賞は「京都精華大学京北宇津宝さがし会」のみなさんでした。



団体からのメッセージ

「京都精華大学京北宇津宝さがし会」は、豊かな自然や歴史・文化を有しながら過疎化の進む京都市右京区京北宇津地域の活性化を目標に活動を行っている大学サークルです。2013年5月から宇津地域で活動を続けています。

夏に開催した子どもフェスタは今年で4回目の開催です。鮎釣り名人の指導のもとでの鮎つかみや、桂川上流での川遊び、地域からのリクエストが多かった子ども写真教室などを行い、子どもたちと学生で宇津の豊かな自然環境を満喫しました。

また、「宇津夏祭り納涼の集い」では、宇津自治会と協働で準備や片付けを行い、ヨーヨー釣りや地元で収穫されたきゅうりの一本漬けをはじめとした屋台の出店をしました。

そして11月には京北地域で活動されている子育てサークル「親子にっこり製作所」とのコラボ事業としてお化け屋敷の企画・運営やものづくりワークショップをし、多くの子どもたちや保護者の方たちに来場してもらうことが出来ました。

他にも「いっぶく家宇津移住促進チーム」との協働で移住を呼びかける看板作成などに取り組み、宇津地域の魅力を発見し発信していくことに注力しています。

これからも、地域の人たちとの協働や和を大切に、私たちがができる活動を展開していきたいと考えています。



乾選考委員長メッセージ



「学まちコラボ」は、大学生の学びを支援する京都市と大学コンソーシアム京都の事業ですから、支援の大きな目的は「学生さんの学び」「学生さんの成長」です。ここが、他の「まちづくり」支援事業とはひと味違う、本事業の最大のウリです。

「学まちコラボ」事業は、学生さんが「地域の方と一緒に、地域のために活動する」なかでの学びと成長を重視しています。地域を知り、地域の方と連携し、地域の方と気持ちを通わせながら、大学で習った知識や技を現場で活かす…そんな「実感を伴う学び」に赴くことを求めています。これが本事業の第2のウリです。

「上手くいくかなぁ」と不安な人も居るかもしれませんが、安心してください。こんな（先の見えない…笑）学びの冒険をサポートするため、事務局と選考委員会は、支援団体決定の後も、アドバイスや他団体との交流の場を用意しています。これが第3のウリです。

じつはこんな体験は、地域活動が盛んな、そして学生さんを大切に作る気風に満ちた京都でなければできない、とても贅沢な学びなのです。おまけに…2017年度より「文化枠」という新たな募集枠も増えています。「地域の文化」「地域で文化」…ん？、文化ってなんや？…みんな面白がってみてください。待っています。



(公財) 大学コンソーシアム京都 学まちコラボ事業担当
TEL : 075-353-9130 / FAX : 075-353-9101
(※日・月を除く 9:00~17:00)
Mail : gakumachi-admin-ml@consortium.or.jp
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

京都市総合企画局総合政策室 (大学政策担当)
TEL : 075-222-3103 / FAX : 075-212-2902



検索

学まちコラボ



発行：京都市総合企画局総合政策室
京都市印刷物 第293219号 平成30年3月



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

